

ICJLE 2016年9月10日 10:10~12:05

ビジネス日本語教育における 人材育成と人間形成 — その理念と方法を考える —

パネルセッション
ID278

奥田純子(コミュニカ学院)

神吉宇一(武蔵野大学)

川口義一(言語・生活研究所)

堀井恵子(武蔵野大学)

パネル・セッションの流れ

1. 本パネルの背景と趣旨
2. パネリストの発題の論点
「人材育成」と「人間形成」との関係から
3. パネリスト発題
4. ディスカッション

1-1. 本パネルの背景

ビジネス日本語教育における目的の流れ（日本国内の場合）

70年代～ ビジネス・パーソンのための日本語教育

→業務遂行・達成を可能にする日本語力の養成

研修

2007年～ 留学生のためのビジネス日本語教育

→就職活動・キャリア形成のための日本語
国策、企業戦略、経済論理

人材育成

(公)教育における目的: 人格の完成・形成(教育基本法)

ビジネス日本語教育は教育としての目的＝理念が不在ではないか？

人間形成

1-2. 本パネルの趣旨

ビジネス日本語教育は、

学習者の人生の質にコミットし、

人材育成のみならず、人間形成をも担う分野であるという認識のもと、

4つの視座からビジネス日本語教育の理念と方法を議論する。

- 人間形成として育成すべき能力の視座
- オートノミー育成としての教養教育の視座
- 人材育成、人間形成の基礎としての敬語表現教育の視座
- アーティキュレーションの視座

パネル・セッションの流れ

1. 本パネルの背景と趣旨

2. パネリストの発題の論点

「人材育成」と「人間形成」との関係から

3. 発題

4. ディスカッション

第1パネル「人間形成として育成すべき能力の視座」神吉宇一

- ビジネス日本語教育研究は、「アジア人財」の取り組みにより大きく変化した
- 「アジア人財」ではスキルや知識の育成に加えて「社会人基礎力」の観点から人間形成的な視点が実践に盛り込まれた
- しかし、従来のビジネス日本語教育も、「アジア人財」の取り組みも、「企業が求める人材の育成」という受身的な教育機関の取り組みが中心である
- ビジネス日本語教育は、企業に求められるスキルや知識を身につけることでも、求められる人材を育成することでもなく、企業に求められる価値を創造し、それを提供し、「変革」を起こす経験をすること
- 企業に提案するという視点・姿勢が必要である

第2パネル「オートノミー育成としての教養教育の視座」奥田純子

1. ビジネス日本語教育の理念は、(留)学生が学習を通して、ビジネス日本語ユーザーとしての新しいアイデンティティ＝人材像、人間像を自ら形成するためのサポート
そのための能力＝学習者オートノミーの育成。
≠目指すべき人材像、人間像を所与とした育成、形成ではない。
2. オートノミーへの注目は、ビジネス日本語教育における学習の質とどのような言語
学習者を育てるかに関する再検討を含む。
3. 新しいアイデンティティの形成支援であるビジネス日本語教育は、人間形成の
基礎としての教養教育として議論される必要がある。
4. 学習領域を、学習対象ではなく、リファレンス、リソースとして位置づけた学習／教育
のプロセスが必要である。

第3パネル「人材育成・人間形成の基礎としての 敬語表現教育の視座」川口義一

・「人材育成」との関係

◇発題で紹介する**教室と教室外の「並置観」**、すなわちウチもソトも等しく葛藤や矛盾に満ちた場所として捉え、学習項目が理解され、再生可能になってから前進するという**「予定調和」的な教室運営を目指さない立場で教育**することにより、学習者は、不明な点や理解困難な点などを、**教師や他の学習者との真剣なインタラクションによって解決して自律的に学習**していくことになる。このような学習経験は、**周囲の状況を読み取り、入手可能な情報を基に現状把握を行う人材の育成を初級から可能にする**。

・「人間形成」との関係

◇発題で紹介するような教室活動は、**表現としての敬語**が、「狭義敬語」の学習を遥かに超え、**人と人がお互いに相手の立場に配慮して、かつ各自の伝えたいことを理解してもらえるように工夫する表現行為**であり、文法も語彙も発音も、すべてこの目的のために習得するのだとさえ言うことを学習者に了解させよう。このような表現観は、**自他の相互理解を信じきる姿勢を育て、よりよき人間形成に資**することが期待できる。

第4パネル「アーティキュレーションの視座」 堀井恵子

- 大学生に対するBJ教育の理念:

「大学教育として、社会に出ようとする学生の自己実現のサポート/人間形成の一環」として、アカデミック・ジャパニーズ教育とのアーティキュレーションによって、社会人基礎力を含む汎用的スキル、説明、交渉などができるコミュニケーション力、接触場面での異文化調整力、そして、他者と協働で問題を発見し解決する行動力を育む。

- BJ教育の方法:PBLの勧め

パネル・セッションの流れ

1. 本パネルの背景と趣旨
2. パネリストの発題の論点
「人材育成」と「人間形成」との関係から
3. パネリスト発題
4. ディスカッション